

「一日一日にけじめをつける」

土光敏夫

きょうという日は、すべての人にとって平等に訪れるかけがえのない一日である。自己の人生にとって初めて訪れた日であり、またけっして再び訪れることのない日でもある。だから、この一日を粗末に過す人は、毎日を粗末に過し、一生を粗末に過すことに通ずる。

一日一日にけじめをつけていこう。

きょうのことは、きょうやっしまおう。

これは、忙しいとか暇があるとかの時間の問題ではない。

志（こころざし）の問題である。

「あしたにしよう」という弱い心に、自ら鞭を打て。

あしたという日には、またあしたやるべきことが待っている。

「土光敏夫 信念の言葉」PHP研究所（抜粋）